

【めざす児童像】

- ・ 学び続ける子
- ・ 自分を好きになり仲間を信頼できる子
- ・ 役に立つ喜びを感じられる子

夢への一歩

平成28年2月23日

1 来年のリーダーも素晴らしい (児童会立会演説から)



2月16日児童会選挙がありました。あまりに素晴らしい発表だったので皆さんに紹介することにします。来年度のリーダーたちの「笑顔あふれる素敵な学校づくり」についてお聴き下さい。

なお、紙面の都合で、掲載は原稿の一部となっています。また、個人情報の観点から個人名は省略しています。

□立候補した理由は、残された小学校生活の中で、何か新しいことにチャレンジし、自分を変えようと思ったからです。ぼくは今、サッカーをがんばっています。目標は淡路一位になることです。そのためにも自分自身が強くなり、変わらなければならないと考えています。みんなで力を合わせチーム力を上げていかないと目標は勝ち取れません。それは学校生活も同じです。学校は一つの大きなチームです。みんなが笑顔で仲良く楽しく、嫌な思いをしないチームにしていきたいです。

□ぼくは、大きな声であいさつするには自信があります。ぼくは登校中のあいさつを意識しています。児童会役員になったら、例えば下駄箱の前に立ち、みんなとあいさつをして、カードに書いてもらう等の児童会行事を計画したいです。

□私たちの学校で時々ケンカがあります。ケンカがあるとみんなの空間や空気が悪くなります。私はそこを直して、いつも仲の良い楽しめる学校にしたいです。私はみんなを笑顔にする自信があります。(中略) そのためには、全校生で出来るだけ遊び、ふれ合い集会を増やして、みんなが協力しながら楽しめる活動に力を入れたいです。

□私は今、相手の気持ちを考えて行動したり話したり出来るように気をつけています。それが出来れば、迷惑をかけないし、相手も気持ちが良いと思うからです。私が児童会役員になったら、笑顔一杯、みんなが気持ちよく過ごせる学校にしたいです。

□ぼくは、大家族のような学校にしたいです。今以上に他の学年とのふれ合いを増やし、学年関係なく協力し合えたら、もっと楽しくなるのではないかと考えたからです。



□私は人前で話をする事は得意ではありません。でも人を楽しませることはとても得意です。私は笑顔があふれる明るい学校にしたいと思います。みんなが笑顔だと学校が楽しくなるし、自然と明るい学校になります。縦割り班で活動する機会をもっと増やしていきます。

□私が立候補したのは、今役員をしているAさんにあこがれているからです。私は下の子の面倒を見るのがとても好きです。困っている子や泣いている子がいたらすぐに助けに行こうと思います。ポスターに書いた「うさぎ」は大きな耳で小さな音も聞き逃しません。わたしもここにいる皆さんの声をしっかり聴いて、皆さんの役に立てるようにがんばります。

□ぼくは今野球をがんばっています。野球は一人で出来るスポーツではありません。みんなが力を合わせて、全員が一つになったときに100%の力が出せるのです。ぼくは最高学年のリーダーとしてみんなをまとめていきたいと思っています。

また、ぼくは、一人一人が持っている個性を生かしていけるような学校にしたいです。一人一人男の子も女の子も学年に関係なく、だれとでも仲良

くできる学校にします。

□私はみんなをまとめることに自信があります。これまで学級委員や班長として取り組んできたからです。私はもっと笑顔で明るい学校にしていきます。そのためには、他の学年との交流を増やしたり、あいさつがしっかりできる学校にします。あいさつが出来れば、地域の方や学校に来てくださったお客さんも気持ちが良いと思うからです。

□私はみんなの前で発表するのは得意です。これからはもっと発表が上手になるようにしたいと思っています。笑顔のあふれる学校にするために、あいさつ運動や児童会行事を充実させます。ふれ合い集会では1年生から6年生までみんなが楽しめる行事にしていきます。

※立派な立会演説会でした。皆さんの話を聞いて感動しました。現在の6年生も素晴らしいですが、来年度も楽しみです。

2 校内マラソン大会



1月27日校内マラソン大会を計画したところ、本当に多くの保護者・地域の皆様に応援していただきました。

天候にも恵まれ、児童は精一杯の走りをしたと思います。本校はバス通学の児童も多く、体力不足が心配です。今後も体力向上を目指します。

3 ありがとう



夢を叶える
愛言葉
ありがとう



「ありがとう」の反対の言葉（対義語）を考えてみてください。「すみません」や「ごめんなさい」が思い浮かびますが、実は正解は…。

「あたりまえ」です。

私たちは日々の生活の中で、昨日の出来事は、今日あっても「あたりまえ」と思いがちですが、実は「あたりまえ」ではないことが多くあります。病気になって知る健康のありがたさ。亡くなって知る故人のありがたさ。戦争中には平和のありがたさを知り、食糧難になって日々食事が出来ることのありがたさを知る。

稲森和夫氏は著書「生き方」の中で、次のように述べています。

困難があれば、成長させてくれる機会を与えてくれてありがとうと感謝し、幸運に恵まれたなら、なおさらありがたい、もったいないと感謝する。少なくともそう思えるような感謝の受け皿をいつも意識的に自分の心に用意しておくのです。

同じものを得ても、足りなく思う人もいれば満ち足りる人もいます。少ないものでも「足るを知る」人もいれば、いくら得ても飽くことを知らない人もいます。不平不満の絶えない人がいる一方で、どんな時でも心が満ち足りている人もいます。

それは、心の問題なのです。

感謝の心をもてれば、その人は満足感を味わうことができるのです。

子どもたちの笑顔を見ると、「ありがたい」と思います。先生方の笑い声が聞こえると、「ありがたい」と感じます。

日々学校生活が順調に過ごせているのは、保護者PTAの皆様のおかげであり、地域の皆様のご協力があったことです。

「本当にありがとうございます。」

私事ですが、先月四国八十八カ所巡りを結願し、（途中サボって10年かかりました）高野山で納経帳と掛け軸にご朱印をいただきました。宗教上の想いではなく、神々しい場所で、「家内安全・無病息災」と「辰美小学校児童を始めとする教え子たちの幸せ」を八十八回祈ったことこそ価値あることではないかと思っています。読者の皆様の中には、先達も多くいらっしゃると思います。機会があればぜひご指導をお願いします。